



# 南舞岡小だより

学校教育目標「学ぼう つながろう 切り拓こう」

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (Tel823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

## 素直な心

学校長 地主 佐和子

梅雨が明け、大変暑い日が続いております。朝から気温が高いということも珍しくない昨今の夏、子どもたちの登校の風景も先月とは大きく変わりました。5月に昇降口に取り付けたミストシャワーが子どもたちを迎え、その下を通る一人ひとりの笑顔は最高です。また、各ご家庭でご準備いただいた体を冷やすための工夫に加え、水泳バックを持ってくる子どもたち、この風景はまさに夏本番です。6月3日に「学援隊よろしく願いますの会」を行いました。天気、気温に関係なく子どもたちを見守ってくださっていることに、改めて感謝の気持ちをお伝えしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

さて過日、新聞の読者の投稿で、心に残る文章がありました。投稿のテーマは「今だから言える」、投稿者は92歳の方で、題は「違う名で呼ばれた入学式」です。6月9日神奈川新聞「小学校の入学式で担任からの呼名があったのだが、自分の番のときに違う名前が呼ばれ、返事をしなかった。しかし、その後も間違った名前が繰り返され、4回目か5回目で小さい声で『はい。』と返事をしたところ、あとから担任がげんこつで頭をコツン、そして「早く返事をしろ。」と言った」という内容でした。これを読んだときに思い出したことがあります。私が小学校1年生のときの出来事です。給食の下膳時にスプーンを返却した際、前に並んでいた子が入れたスプーンが奥まで入ってなくて、すぐに床に落ちてしまいました。その子はそのまま席に戻り、次にいた私が先生から叱られました。落ちたときにすぐに拾わなかったからです。おそらくスプーンを入れたのが私で、それなのに拾わないと先生は思ったのでしょう。まさに「今だから言える」ことです。当時の私は、自分ではないと言う勇気がありませんでした。先生の叱る勢いに涙したことも覚えています。

何十年も前のことなのに、新聞への投稿者の方も私もずっと心に残っている苦い思い出です。また、何十年も経った今だから、重たい空気にせずに話題にできるのかもしれない。じつは新聞の投稿は、次のように続きます。「あとから自分の名前の漢字が、担任が読み間違えたようにも読むということを知った。それからは名前に必ず読み仮名を振ることにした。」素敵なエピソードだと感じました。

大人だから間違えないわけではありません。大人でも子どもでも勘違いは誰にでも起こります。そんなとき、間違ったなら謝る、相手の表情などから、勘違いはしていないだろうか？と自問する、そんな素直な心をもつ人間でありたいものです。7月は個人面談が予定されています。その後夏休みです。各ご家庭でお子さんと向き合う時間が長くなります。どうか、素直な心を大事にし、子どもの目線になって考える毎日を共に過ごしていけたらと願っております。